

# 今週のKinoppy新着情報一 学術書・教養書

書籍画像をクリックしますと、書籍詳細ページへリンクします。



## 街場の五輪論(朝日文庫)

内田樹/小田嶋隆/平川克美【著】 税込 ¥615 (紙の書籍 ISBN:9784022618641 2016/07刊)  
朝日新聞出版

東京五輪招致成功から3年。アベノミクスが失敗と言われるなか、成長戦略としての五輪開催は破綻している。新競技場建設、膨れ上がる費用など問題山積のまま。開催万歳の同調圧力に屈しない痛快座談会に、最新語り下ろし鼎談を加えての文庫化。



## 私立大学の教師教育の課題と展望

黒澤英典 税込 ¥3,888 (紙の書籍 ISBN:9784762015250 2006/04刊)  
学文社

建学の理想、歴史的伝統等、私立大学固有の特色を生かした教職課程教育を省察・分析。私立大学が特色ある資質・力量を兼ね備えた教師を教育界に送り出すための課題を論じ、教育の未来を展望する。



## 行動経済学の逆襲

リチャード セイラー【著】 税込 ¥2,721 (紙の書籍 ISBN:9784152096258 2016/07刊)  
遠藤真美【訳】  
早川書房

“ぐうたら”学者がいざなう、行動経済学誕生の波乱に満ちた舞台裏。伝統的な経済学の大前提に真っ向から挑んだ行動経済学。そのパイオニアが、自らの研究者人生を振り返りつつ、“異端の学問”が支持を集めるようになった過程をユーモアたっぷりに描く。行動経済学は、学界の権威たちから繰り返し糾弾されながらも、どのように反撃して強くなっていったのか？これからどう発展し、世界を変えていけるのか？“ナッジ”の提唱者がすべてを書き尽くした渾身の力作。



## 人工知能と経済の未来 2030年雇用大崩壊(文春新書)

井上智洋 税込 ¥849 (紙の書籍 ISBN:9784166610914 2016/07刊)  
文藝春秋

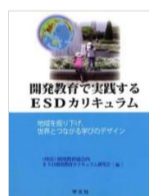
小説を書いたり、囲碁で世界的な強豪を負かしたりと、AIが目覚ましい発展を遂げています。このまま技術開発が進んでいくとどうなるか…。著者は「2030年には人間並みの知性を持ったAIが登場する可能性がある」と指摘。AIによって奪われた労働は、BI(ベーシックインカム)で補完しよう！それが著者の提言です。AIの発達が人類の幸福へつながるためにはどうすればいいのか。気鋭の経済学者の大胆予測。



## アジア地域のモノづくり経営

野村重信/那須野公人【編】 税込 ¥3,024 (紙の書籍 ISBN:9784762019913 2009/09刊)  
学文社

企業経営の現実を理論と実践の緊密な相互作用を通じて分析し、新しい経営理論の創造をめざす。グローバル環境下における工業経営研究というテーマのもと、アジア地域を中心とした調査研究を中心に編纂。工業経営研究学会20周年記念シリーズ第1巻。(シリーズ第2巻あり)



## 開発教育で実践するESDカリキュラム

(特活)開発教育協会内ESD開発教育カリキュラム研究【編】 税込 ¥2,592 (紙の書籍 ISBN:9784762021022 2010/08刊)  
学文社

これまでの開発教育カリキュラムの課題について反省を加えながら、国連・持続可能な開発のための教育の10年におけるESD実践や2011年度からの新学習指導要領での開発教育実践を推進する手引書。



## 開発教育

田中治彦【編】 税込 ¥2,592 (紙の書籍 ISBN:9784762017513 2008/08刊)  
(特活)開発教育協会 企画協力  
学文社

近年、地球環境問題の深刻化などのさまざまな課題があるなか、開発教育やそこで扱うテーマを簡潔にまとめたテキスト。人生選択の時期にある若い方々にこれらの問題について関心をもってもらい、「持続可能な世界」がいかにしたら可能となるかを考えるのに役立つ。



## 〈解釈〉と〈分析〉の統合をめざす文学教育

鶴田清司 税込 ¥19,440 (紙の書籍 ISBN:9784762020360 2010/03刊)  
学文社

「物語や小説を読む」「テキストの意味が分かる」とはどういうことか。読書行為という日常的な実践のなかに潜む、本質的な問いに対しどう答えるか。ガダマーやリクールらの解釈学を手がかりに、そうした根源的な問題を視野に入れた文学教育論を構築し、新たな実践を開拓。これまで異質の世界に属していた新しい解釈学理論と文学教育実践との間に、「読むこと」の理論と実践の関係を問うことにより、創造的な架橋をする試み。

書籍画像をクリックしますと、書籍詳細ページへリンクします。



**数論序説**

小野孝  
豪華房

税込 ¥3,888 (紙の書籍 ISBN:9784785310509 1987/01刊)

整数論の入門から研究論文までのかけ橋を望む読者のために、「序説」の立場で解説したものである。第1章は「初等整数論」に相当するところで、整数の基本事項から出発して、ガウスの相互律まで解説。従来の書と異なり、いたるところに群(環、体)の方法を用い、初等整数論と代数的整数論の垣根をとり払った特色ある内容である。第2章以降は「中等整数論」に相当するもので、有限次代数体への拡張、整数論における幾何学的ないし解析的方法、解析的方法の円の分体への応用を解説している。



**生徒指導の危機【HOPPAライブラリー】**

保坂武道  
中西出版

税込 ¥1,512 (紙の書籍 ISBN:9784891153250 2016/06刊)

これがほんものの生徒指導。50年以上にわたる学校現場での実践から、「生徒指導提要」に迫る。激変の時代に即した「新しい生徒指導」はどうあればよいのか。学校づくりの根本的な取り組みから、その方法・原理を再考する。学校づくりのなかでの生徒指導の目標・関わり方を明確にし、教育カウンセリングを軸にした積極的な生徒指導を提示する。大学全入時代を迎え、目先の点数にとらわれず、学問を学ぶことの楽しさや面白さを身につけてやれないものか? 魅力ある学校づくり、「人間の尊厳」を大切に教育の実現を目指す、21世紀における学校経営の試案。



**観光まちづくりの力学**

安村克己  
学文社

税込 ¥2,052 (紙の書籍 ISBN:9784762014758 2006/01刊)

地域社会と観光まちづくりのあり方、その生成の力学を実例研究と理論的考察から社会的に探求した。湯布院や長浜の観光まちづくり事例を検討し、その上で観光まちづくりの力学モデルを社会的に提唱。新しい時代と地域社会につながる観光まちづくりの理念とその基本指針を提示した。

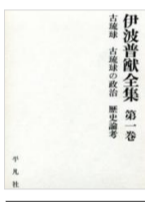


**近代日本幼稚園建築史研究**

永井理恵子  
学文社

税込 ¥8,202 (紙の書籍 ISBN:9784762014673 2005/12刊)

幼稚園教育実践のための物的環境である「園舎」について、明治初期～昭和戦前期の建築形態の変遷と成立過程を詳細な事例分析により明らかにした。園舎成立の原理とその価値を考究し、幼稚園教育文化史に新たな1ページを刻んだ大著。



**伊波普猷全集 第1巻**

伊波普猷  
平凡社

税込 ¥7,466

(2016/08刊)

【電子書籍でのみ入手可】  
古琉球 古琉球の政治 歴史論考



**刀の日本史(講談社現代新書)**

加来耕三  
講談社

税込 ¥810 (紙の書籍 ISBN:9784062883801 2016/07刊)

古来、日本人は刀剣を大切に、また愛でてきた。英傑たちは好んで名刀を求め、作らせ、現代においても、刀剣自体が美術工芸品として、高価で取り引きされている。本書は、東軍流十七代宗家、タイ捨流の免許皆伝として古流剣術を稽古し、真剣を実際に扱い、『日本武術・武道大事典』を編纂するなど、武術と刀剣との関わりを深く研究・理解してきた著者が、刀剣のおこりや発達に関するさまざまなエピソードを披露する。



**138億年の音楽史(講談社現代新書)**

浦久俊彦  
講談社

税込 ¥864 (紙の書籍 ISBN:9784062883818 2016/07刊)

「われわれは、どんな過去にさかのぼっても音楽に出会う」。ビッグバンから始まった「宇宙の音楽」の歴史では、ベートーヴェンもビートルズもちっぽけな砂の一粒に過ぎない。鳥や鯨の「作曲術」から人体という楽器が奏でる音楽まで。ピタゴラスの天球の音楽からアボリジニのソングラインまで。「音」と「調和(ハーモニー)」をキーワードに壮大なスケールで描く、これまでにないユニークな書。



**常用漢字の歴史 教育、国家、日本語(中公新書)**

今野真二  
中央公論新社

税込 ¥799 (紙の書籍 ISBN:9784121023414 2015/09刊)

10万字以上の漢字のなかで、日本語の読み書きに使う目安となる常用漢字は2,136字。これに人名用漢字を加えた約3,000字で過不足はないのか。選択の基準はどこにあり、字体や音訓はどのように決められたのか。本当に常用されているのか。国家が漢字と音訓を制限することの功罪とは。本書は江戸時代の常用漢字を推測する実験から説き起こし、明治以降のさまざまな漢字表を紹介。



**核と日本人 ヒロシマ・ゴジラ・フクシマ(中公新書)**

山本昭宏  
中央公論新社

税込 ¥810 (紙の書籍 ISBN:9784121023018 2015/01刊)

唯一の戦争被爆国である日本。戦後、米国の「核の傘」の下にありながら、一貫して「軍事利用」には批判的だ。だが原子力発電を始めとする「平和利用」についてはイデオロギーと関わりなく広範な支持を得てきた。東日本大震災後もなお支持は強い。それはなぜか。本書は、報道、世論、知識人、さらにはマンガ、映画などのポピュラー文化に注目、戦後日本人の核エネルギーへの嫌悪と歓迎に揺れる複雑な意識と、その軌跡を追う。

